

## I. はじめに

### センターと各部局との連携強化による教育支援のさらなる拡充

高等教育研究開発推進センターは、国立大学法人の第3期中期目標・中期計画期間において、京都大学の教育改革・改善をより広範にわたって一層強力に支援・推進するため、以下の新たなミッションと共に、2016年度から「全学機能組織」として再出発しています。

- 高等教育における教授法、教育課程、教育評価、教育制度、ICT活用等、教育システムにかかる開発と実践を行う。
- 本学の教育改革・改善に資する取り組みについて、専門的立場から調査・企画・実施・評価・助言・協力をを行う。
- 実践的研究に基づく成果を、本学の教育の質の向上に供するとともに、国内外の高等教育の発展に寄与する。

現在、本センターは、「高等教育教授システム研究開発部門」、「教育メディア研究開発部門」、「教育アセスメント室」の2部門・1室から構成されており、様々な教育支援の取組や産学共同研究プロジェクト等を通して、多面的・創発的な教育改革・教育改善に取り組んでいます。この「CPEHE Annual Report」では、学内各部局や関連諸機関との連携を通じた先進的・萌芽的な試みも含め、本センターの様々な活動や事例が具体的に紹介・報告されています。

近年、本センターは、長年に渡って開催されてきた「全学教育シンポジウム」、「新任教員教育セミナー」、「大学院生のための教育実践講座」等の全学的FDの支援に加えて、できるだけ多くの学内各部局やプロジェクトと連携し、それぞれのニーズに合った教育支援を行うことに尽力してきました。

例えば、FD・教育改善支援については、文学研究科プレFDプロジェクト、医学教育・国際化推進センターとの連携による「現場で働く指導医のための医学教育学プログラム(FCME)」、薬学部とのアクティブ・ラーニングを取り入れた初年次科目等の授業改善や学生の学習・生活実態調査の支援、宇宙総合学研究ユニットとの連携による「有人宇宙教育プログラム」のカリキュラムや評価のデザイン支援などに取り組んでいます。

ICTを利用した先端的な教育・学習支援については、各部局のオープンコースウェア(OCW)や大規模オープンオンライン講義(MOOC)の取組状況や、学内で運用が始まっているKoALA(SPOC: Small Private Online Courses)を用いた「より柔軟な教育・学習方法をオンライン講義・教材の活用」等の取組について、本報告書で詳しく紹介されています。

KoALAの活用については、例えば、本センターの総長裁量経費プロジェクト「SPOCを活用したELCASの拡充と京都大学OCW再利用を通じた高大接続の推進」によって、ELCASの提供する質の高い教育プログラムを「いつでも・どこでも」受講可能にする仕組みを開発し、新たなオンライン講義の制作・提供を行ったり、既に多く蓄積されている本学のOCWやMOOC等の教育コンテンツの一部を再利用しSPOC教材化することを目的として、高校生向けの教育提供のより一層の拡充に取り組まれました。これらの取組については、教育におけるICTの活用に関するポータルサイト「CONNECT」や京都大学のオープンな教育コンテンツの活用促進によって高大接続・高大連携を支援するポータルサイト「KNOT」も是非ご参照ください。

さらに、学内の各教育支援組織・部局との連携を通じて全学・各部局の教育学習改善支援の一翼を担う本センターの教育アセスメント室の活動として、前出の医学部教学IRの推進、教育学部との連携による体系的アセスメント(学生調査や特色入試入学者の追跡調査等)の推進、産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE)との連携による大学院生の研究インターシップの成果検証と評価ツール開発についても掲載されています。

最後になりましたが、本報告書で網羅されている諸活動やウェブサイト(<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp>)等を通じ、本センターが、今後とも本学の教職員や各部局の抱える様々な教育的課題の解決・改善のお役に立てれば幸いです。本センターの活動と展開に、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



京都大学高等教育研究開発推進センター長  
飯吉 透